

平成二十三年十月二十六日提出
質問第一〇号

環太平洋経済連携協定（TPP）への交渉参加並びに参加後の交渉離脱の可能性に対する政府
の見解に関する質問主意書

提出者 浅野 貴博

環太平洋経済連携協定（TPP）への交渉参加並びに参加後の交渉離脱の可能性に対する政府
の見解に関する質問主意書

昨年十月一日、当時の菅直人内閣総理大臣が第一七六回臨時国会での所信表明演説において、環太平洋経済連携協定（TPP）について言及し、以後、政府としてそれに関する交渉、そしてその枠組みへの参加を目指していると承知する。右を踏まえ、質問する。

一 現在、我が国としてTPPの交渉並びにその枠組みへの参加を巡り、各種団体はじめ国内の様々なところから、賛否両論の意見が寄せられているものと承知する。その中で、前原誠司民主党政調会長、または藤村修内閣官房長官、枝野幸男経済産業大臣等、民主党、そして政府部内から、TPP交渉に参加した後、それが我が国の国益に資するものでないとわかったなら、交渉からの離脱もあり得る旨の発言がなされている。その一方で、玄葉光一郎外務大臣は、論理的にあり得るが、実際には極めて困難である旨の、相反する発言もなされている。野田佳彦内閣総理大臣として、右両論につき、どのような見解を有しているか。野田総理として、我が国がTPP交渉に参加した後、交渉から離脱することは可能であると認識しているか。

二 一で、可能であると認識しているのなら、その根拠を示されたい。

三 野田総理として、交渉参加後の離脱もあり得るとの認識の下、TPP交渉に参加するのか。

四 仮に我が国として、TPP交渉に参加をしたものの、その後離脱をした場合、国際社会の中で、我が国としてどのような影響を被るか。野田総理の認識を説明されたい。

右質問する。